

平成27年度指定 スーパーグローバルハイスクール



広島大学附属福山中・高等学校

瀬戸内から世界へ！世界から備後へ！

—グローバルコミュニケーションと合意形成を柱に—

当校の研究開発の流れ

- 1962年全国に先駆けて中高一貫教育を始める
- 1966年ベルもチャイムの鳴らない学校
- 1998年～ 総合的な学習の時間のカリキュラム化
教科横断的なカリキュラムの開発
- 2003年～ 研究開発「科学的思考力の育成」
すべての教科で取り組む「サイエンスプログラム」
- 2006年～ 研究開発「科学を支えるリテラシーの育成」
- 2009年～ 研究開発「クリティカルシンキングの育成」
- 2012年～ 研究開発「ESDをめざしたCTの育成」
- 2015年～ S G H

当校のSGHの特徴

- 全教科・全教員で取り組むプログラム
- 6カ年を見通した総合的な学習の時間のカリキュラム化
- 新教科の設定
- 広島大学との連携プログラム

当校のSGHの目的・目標

- グローバルリーダーとしての生徒像を以下のように設定し、このような生徒を育むことを研究開発の目的とする。

◇自由・自主の精神

社会や地域に貢献できることを誇りとし、自らの設定した目標を実現するために、進んで新たな知識や能力を獲得し、自ら段取りをして積極的に行動できる生徒

◇「基盤となる教養」の獲得

バランスのとれた全人的な教養と、アイデンティティやコミュニケーション能力を身につけた生徒

◇「クリティカルシンキング」の実践

適切な基準や根拠に基づき、論理的で偏りのない思考をし、課題を発見し、よりよい解決に向けて地域に根ざした俯瞰的な視点から、複眼的に、より深く思考できる生徒

◇「問題解決」の経験知の蓄積

自ら設定したグローバルな課題を、他の生徒等と情報を共有し協調・協働しながら、創造的に解決する経験知を蓄積した生徒

◇「他者へのまなざし」の体得

自らの利益の主張だけでなく、他者の立場や状況を思い、異文化を理解し、双方が納得できる「合意形成」をめざして行動できる生徒

研究開発の概要

- グローカルなテーマを設定した課題研究を，海外の学校とも連携を図り「研究の方法を学ぶ」，「解決の技を身につける」，「研究の実践」と，経験や発達の段階を考慮した段階的な構成にすることで，効果的に「経験知」を蓄積し，高次の知の総合化をはかる中高一貫の課題研究「グローバルプログラム」を開発する。
- クリティカルシンキングを基盤にした「合意形成」能力など，高次の能力を育成する課題研究特別講座「スーパーグローバル」を，大学等との連携を活用して開発する。
- 地方に根ざしてグローバルな視点からのイノベーションを生み出していく，地方と世界をつなぐグローバルリーダーや地方創生リーダーを育成するために，グローバルな題材で世界標準の学力要因である認知スキル・社会スキルの伸長を図る，新教科「現代への視座」や既存教科の教材や指導方法を開発する。
- グlobalリーダーに求められる資質・能力の構成要素について仮説を立て，それらの評価方法を開発する。

高次の知の総合化

グローバルリーダーや
地方創生リーダーの育成

認知スキル・社会スキルの伸長

合意形成能力の育成

経験知の蓄積

海外の交流校との協働

新教科 現代への視座

5年 グローバル
コミュニケーション

5年 クリティカル
シンキング

新教科 課題研究への誘い

5年 数理情報科学分野

4年 社会科学分野

3年 防災と資源
・エネルギー

解決の技

課題研究

課題研究「グローバルプログラム」

研究の実践

6年 創造Ⅱ

6年 提言Ⅱ

いずれかを選択

5年 創造Ⅰ

5年 提言Ⅰ

研究の方法

4年 体験グローバル

3年 主体的な学びを学ぶ

2年 課題発見を学ぶ

1年 研究を学ぶ

特別講座「スーパーグローバル」

新教科・既存の教科

総合的な学習の時間

課題研究「グローバルプログラム」①

- 発達の段階を考慮し段階的な構成にすることで課題研究の基礎となる経験知を蓄積し，高次の知の総合化を図ることを目的としたプログラム
- 1～6年の総合的な学習の時間と新教科「課題研究への誘い」からなる。

課題研究「グローバルプログラム」②(1)

- 総合的な学習の時間

『研究の方法を学ぶ』

1年「研究を学ぶ」（芸術科・社会科 他）

2年「課題発見を学ぶ」（理科・保健体育科・家庭科）

3年「主体的な学びを学ぶ」（社会科）

4年「体験グローバル」（約20名の教員）



課題研究「グローバルプログラム」②(2)

- 4年「体験グローバル」

- ◇地元福山のオンリーワン企業4社と福山市役所に講演をしていただく。

- ◇講演から気づいたこと・考えたこと・疑問に思ったことなどを出発点に班ごとに研究課題を設定する。2～3班に1人の割合で教員がついて指導を行う。

- ◇夏休みに講演していただいた企業や市役所に出向いて実地調査を行う。

- ◇研究結果を論文やプレゼンにまとめて、発表・相互評価を行う。

課題研究「グローバルプログラム」③

- 新教科「課題研究への誘い」

『解決の技を学ぶ』

4年「社会科学分野」 (社会科)

様々な資料を吟味・検証し、事象・出来事を論理的に説明できる社会の見方・考え方を獲得させ、クリティカルシンキングを通じて、社会を説明できる見方・考え方を精緻にする。現代社会の諸問題についての認識を深め、利害関係の当事者を想定し、相互理解をすすめる妥協点を探り合意形成の素地を養う。

5年「数理情報科学分野」 (数学科・情報科)

情報社会においてその情報技術を十分活用するために、問題の発見と解決の方法の科学的な考え方やクリティカルシンキングの手法を探究的な活動を通して習得するとともに、その基礎となる知識や考え方やその活用方法を習得する。



課題研究「グローバルプログラム」④(1)

- 総合的な学習の時間

『研究の実践』

5年「創造Ⅰ」「提言Ⅰ」選択（教員25名）

6年「創造Ⅱ」「提言Ⅱ」継続（教員25名）



創造

自分や世界についてももの見方、感じ方、考え方を深めるとともに、文章・音楽・美術・書で論理的に、創造的に表現する能力を高めることによって、社会生活の充実を図ろうとする態度を育てる。また、表現について、自分だけに閉じるのではなく、相互評価を行うことで、自分の表現に役立てるとともに、自分や世界についてももの見方、感じ方、考え方を広げようとする態度を育てる。

提言

4年で履修した「体験グローバル」で学んだ複眼的な視点や、課題研究の方法を活かして、生徒自らの問題意識に基づいて、社会的事象から課題を設定し、グローバルな視点を持って研究を進め、発表し、他者との議論を通して互いに研究を深める活動を行う。提言では、個人研究として研究を進めることと、研究を振り返り、研究のプロセスや考察を再検討したり、新たな課題をみつけたりする段階まで研究を深めることを目標としており、これらの点が体験グローバルとの違いとなっている。

課題研究「グローバルプログラム」④(2)

・5・6年「提言」

◇広島大学松浦先生の講義「課題学習の課題」

◇当校SGHの目的・課題研究の進め方・ルーブリックの提示

◇研究テーマ決め（個人研究）・グループ分け（教員約20名）

◇個人研究・論文とプレゼンの作成

◇日本語と英語での研究の要約の作成

◇研究ポスターの作成

◇ポスターセッションの実施

新教科・既存の教科①

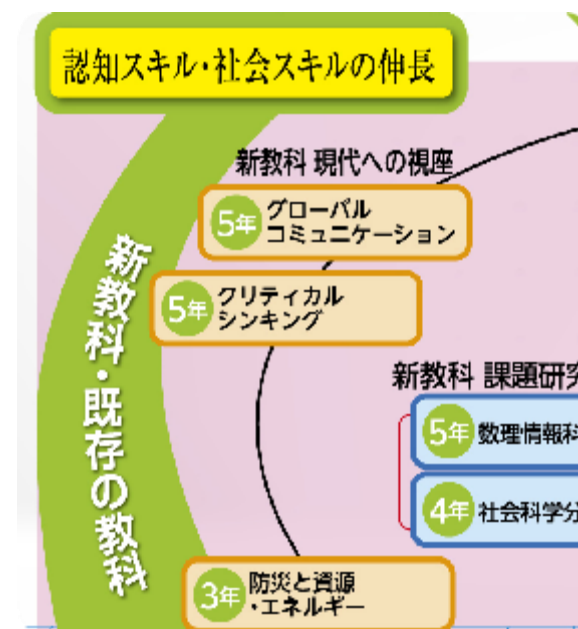
- 既存の教科での取り組み・新教科「現代への視座」での取り組みによって、認知スキル・社会スキルの伸長を目指す。
- 既存の教科での取り組み
- 新教科「現代への視座」

現代社会で生じている諸問題や関連する事物・現象について関心を持ち、論理性や科学性を重視して複眼的に考えようとする態度や、課題研究の基礎となる知識や問題発見のための視点などを育成し、問題解決・意思決定する能力を養う。

3年「防災と資源・エネルギー」(理科)

5年「クリティカルシンキング」(国語)

5年「グローバル・コミュニケーション」(英語)



新教科・既存の教科②

- 新教科「現代への視座」

「防災と資源・エネルギー」

自然災害と防災，資源・エネルギーの利用について関心を持ち，それらについて意欲的に探究して複眼的かつ批判的に分析，考察する基礎的な能力と，協同して防災や持続可能な社会の構築に向けて考えようとする態度を養う。

「クリティカルシンキング」

現代社会の諸問題について論じた評論文を的確に理解し，自分の理解したことや考えたことを適切に表現する能力を高めるとともに，人間，社会，自然などについてクリティカルに考えて，ものの見方，感じ方，考え方を広げようとする態度を育てる。

「グローバルコミュニケーション」

積極的に議論に参加し，相手と対等な立場で自分の意思を伝えようとする態度を育成するとともに，論理や情報の適切さなど多様な観点から聞いたり読んだりしたことについて審議したり，合理的に相手を説得したりする能力を伸ばし，社会生活において問題解決・意思決定ができるようにする。

特別講座「スーパーグローバル」①

- 「合意形成能力の育成」を目的として、授業以外の特別講座という形で実施
- 広島大学大学院国際協力研究科（IDEC）連携プログラム
- 模擬国連（国連カフェ）
- 英国研修
- ISAエンパワーメントプログラム
- イオン1%クラブアジアユースリーダーズ など



特別講座「スーパースターグローバル」②

- I D E C 連携プログラム
5年生希望者対象

広島大学大学院国際協力研究科（I D E C）の留学生は将来母国で社会的課題の解決に向けて活躍する人材であり、それぞれの国が持つ課題を背景に研究している。その研究発表を元に生徒と留学生が英語で意見を交わすプログラムである。多様な観点に基づいて主張することの重要性を学ぶとともに、文化的背景や価値観の異なる集団の中で合意形成しようと努力する必要があるため、生徒にとってとても有意義なプログラムとなっている。

ご清聴ありがとうございました